

## ジョン・ウェスレー講義 坂本 誠

John Wesley



1703年6月17日に英国で生まれ、産業革命の進展に伴う社会の急激な変化の中で、政治経済的に、また思想的に、精神的に混乱する人々を救って、メソジスト教会の始祖とされた人です。彼は「キリスト者の完全」の教理を説き、愛における完全は、信仰によって、この地上で、今、実現するということを強調しました。

彼の死後、1795年、彼の作ったメソジスト会は、英国国教会から分離して米国で「メソジスト派-Methodist-」として誕生しました。その後、多くの宣教師たちが日本にも渡ってきてウェスレーの教理にのっとった福音を伝達して、多くの教団が形成されていきました。この講義では、ウェスレー神学を持つ素晴らしさを確認しつつ、ウェスレーを批判的に継承していくことを目標とします。

### ジョン・ウェスレー (1703~1791) 略年譜

1703年	父サムエル、母スザンナのもとで生まれる。
1709年	司祭館の放火から奇跡的に救出される。
1726年	オックスフォード大学リンカン・カレッジの研究者となる。
1735年	アメリカ・ジョージア伝道を開始する。
1738年	アダスゲイト街で福音的回心を経験する。
1739年	ブリストルで野外説教をする。
1748年	キングスウッドスクールを設立する。
1784年	米国メソジスト監督教会が組織される。
1791年	シティ・ロードで召天。

私たちは、ウェスレーンホーリネスの伝統に生きる者たちです。この点において、ウェスレーの神学は、神学的結論や神学的方法を私たちに与えてくれるものです。ウェスレーは私たちの教祖ではなく指導者であります。その意味で、私たちは、彼に倣いつつ、ウェスレーンに属するものとして教え、説教し、牧会することが重要です。

ウェスレーン・ホーリネスの伝統に生きるということは、私たちがウェスレーの生涯と思想を解釈するときにホーリネス思想を中心に据えることを意味します。19世紀のホーリネス運動も、ウェスレーが強調する「救いの方法」に忠実でありたいと願った者たちから起こったものです。

ウェスレーは、救いは人生の中で起こる転機的で瞬間的な体験以上のものであると定義しました。それは、生涯において起こる内的・外的な聖化をも意味しました。人が新しく生まれ、聖化に至る道筋が、クリスチャンの歩みです。私たちがホーリネスという概念を理解する時に、ウェスレーの神学の定義から隔たったものであってはなりません。これは私たちが21世紀に突入し、一方で原理主義を、他方で宗教的な相対主義を経験している今日において特に重要です。ウェスレーは「心と生活のホーリネス」を強調しました。この概念はすべての世代において重要です。特に将来牧師になる者にとっては重要です。私たちはウェスレーの神学的パラダイムのダイナミックさを大切にしたいと思います。

ウェスレー神学を理解するためには、2つの重要な影響を頭に入れておくべきです。ウェスレーの生涯とウェスレーの神学がどこからきたのかということです。このコ

ースではウェスレーの生涯の歴史的な文脈、特に18世紀英国についても触れます。そのことによりウェスレーが、いかなる神学的な流れの中で自分の神学を形成したのかを知ることができます。

ウェスレーは初代教会（特にニケア会議後および東方教会の伝統）、中世のカトリック神秘主義、プロテスタントの宗教改革（カルヴァン、ルターの伝統、アルミニウスの反論およびルター派の流れを組むモラヴィア派の敬虔主義）、そして何よりもアングリカニズム（特にエリサベス王朝に追隨した時期 カロライン神学）の影響を受けています。ウェスレーの神学の基礎には、これだけの神学が横たわっています。ウェスレーはそれぞれの神学的要素を統合したと言えるでしょう。

ウェスレーの神学的結論を理解するために、ウェスレーの神学の方法論を考察することは重要です。ウェスレーの四支柱といわれているものはご存知でしょうか。ウェスレーは聖書を何よりも優先して大切に考えました。ウェスレーは「一書の人」でした。しかし同時にウェスレーは聖書を他の支柱との関連でダイナミックに解釈しなければならないと考えていました。その結果、聖書は伝統によっても解釈されてきました。しかし、解釈の歴史は常に検証されなければなりません。聖書はキリストを信じる経験およびダイナミックで共同体的な性格をもつ福音に対して常に証しします。聖書は、理性の助けをかりて、理解され、組織づけられ、効果的に伝えられていきます。四支柱による解釈の方法の到達目標は、神学的/教理的な特質だけではなく、霊性を形成することをもたらすものです。

ウェスレーは、様々なものを関連づけながら、恵みに応答すること (Responsible Grace) を強調しました。そのような恵みへの応答がウェスレーの全システムの中で最も中心となるものです。そこでは、神に主権をおきつつ、恵みを受けた私たちがいかに恵みに応答するかという責任が問われているのです。ウェスレーの方法論と教理は、ウェスレアンの世界観をもたらすのです。この世界観が、人生、牧会、多くの人々との関係においてウェスレアンである私たちにレンズをもたらすのです。私たちはこのレンズを通して考えます。このレンズは、他の伝統と比較されなければなりません。特にカルヴァン主義のそれとどのように違うのか検討されなければなりません。

このコースではそれぞれの組織的な範疇をみていきたいと思いますが、何よりもウェスレーの伝統への忠誠と建設的、創造的な神学の幅広さを学びたいと思います。とくに実践的に適用できる救済論的なテーマをウェスレーは持っています。たとえば、ウェスレーの礼拝の神学を学ぶことは「どのようにしてウェスレアンは礼拝するのか」という現実的問いにつながるものです。ウェスレーの人間理解は「神の像および先行する恵みの概念のもとでどのように人を取り扱うか」につながるのです。受講者は、ウェスレアンの伝統における神学と霊性の形成から生じる、個人的、専門的な知識をもとにしてこのコースの内容をよく理解することが望まれます。ウェスレーの「不思議に心が温ま

る」体験は、我々にとって核となるものです。

### 教育のための前提

1 聖霊の働きは、どのようなレベルの神学的教育であれ欠かせません。私たちは、自分たちの中において、継続的に聖霊の導きを求め、期待しましょう。

2 キリスト教の教育と学習は、共同体の中で、仲間と共に作業する時に最もよく実践されます。特にeラーニングではそのことが欠かせません。共同体は聖霊の賜物によって与えられますが、人間の努力によってよくもなれば、聖霊の導きを妨げることもあります。共同体は、共通の価値観、物語、実践、目標を共有するものです。参加者はお互いのために時間をさき、貢献してください。

3 その結果、クラス全体への貢献を経験することができるものです。私たちは教師の資料や教科書を読むことによって学ぶだけでなく、クラス全員から相互に学ぶことができます。各参加は、学ぶ者としてだけでなく、他者を導く教師としても価値があります。

4 受講者が、課題の原則と内容を総合的にとらえ、自分の経験、理念、嗜好に照らし合わせて考察するために日誌をつけることを奨めます。（これは一番最後の授業において扱います。

### この講義の目的

- 1 自己の人生と牧会を神学的に省察する能力を養う
- 2 神学的な省察の源となる理解力、歴史的な教理発展、それを現代的に表現する方法を身につける。
- 3 ウェスレアン神学の決定的な特徴を明確にする能力を養う
- 4 ウェスレアンの立場からホーリネスの教理を明快に説明できる能力を養う。
- 5 議論の有効性を分析し、その前提と結末を分析する能力を養う。

### 実際的な適用

1. ジョン・ウェスレーの思想を解釈し、それが21世紀の私たちにどのようなことを教えてくれるのかを学ぶこと
2. ウェスレーのとった実践的な方法を、私たちの個人的、社会的なホーリネスを実践するために効果的に適用すること

3. ウェスレーの神学的な原則を自分の実際的な生活に適用すること。
4. ウェスレーの霊的成長の原則を自分をより豊かにするために適用する。
5. ジョン・ウェスレーの人生をその歴史的な文脈の中で理解する
6. ウェスレーの神学的方法論（ウェスレーの四支柱の機能）を理解する
7. ウェスレーアンの世界観を人生、牧会、関係、職業に生かす。

#### 参考するウェブサイト

Wesley Center for Applied Theology <http://wesley.nnu.edu>

このサイトにはウェスレーの日誌(Journal) 日記(diary)手紙 (Letters)がおさめられています。是非一度訪れてください。

#### 教科書

藤本満 『ウェスレーの神学』 福音文書刊行会、1990年

#### 参考文献

清水光雄 『メソジストって何ですか』 教文館、2007年

坂本誠 『ウェスレーの聖餐論』 教文館、2009年

Campbell, Ted, *John Wesley's Conceptions and Uses of Christian Antiquity*. Nashville; Kingswood/Abingdon Press, 1984.

Dunning, H. Ray. *Grace Faith and Holiness: A Wesleyan Systematic Theology*. Kansas City Beacon Hill Press, 1988.

Gunter, W. Stephen, et al. *Wesley and the Quadrilateral: Renewing the conversation*: Nashville, Abingdon Press, 1997.

Maddox Randy, *Responsible Grace: John Wesley's Practical Theology*, Nashville, Kingswood Books, 1994.

Heitzenrator, Richard P, *Wesley and People called Methodist*, Nashville; Abingdon Press, 1995.

Oden, Thomas C. *John Wesley's Scriptural Christianity: An Plain Exposition of His Teaching on Christian Doctrine*, Grand Rapids, Zondervan, 1994.

Staples, Rob L., *Outward Sign and Inward Grace: The Place of Sacraments in Wesleyan Spirituality*, Kansas City: Beacon Hill Press 1983.